

区 分	教養教育科目－スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ A (ゴルフ)					
英 訳	Sports A					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 ゴルフの理論と応用技術をグラウンドで学習し、学外のショートコースにおいて実践ラウンドを行い、ルール、マナーなどのラウンド知識を習得する。						
【授業の目的】 ゴルフは高校までの学校体育の教材として採用されることのほとんどない運動種目である。基礎的な理論・技術とラウンド技術を習得し、生涯にわたってゴルフを楽しむことが出来るようになることを目的とする。						
【到達目標】 ゴルフ技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくラウンドプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2 回 グリップとアドレスの理論と実習 第 3 回 プレーの方法 (ルール・プレー用語) 第 4 回 ドライバーのスイングづくりの理論と実習 第 5 回 スイングの完成とチェックの分析 第 6 回 ショートゲームの理論と実習 第 7 回 効果的な練習方法の理論と実習 第 8 回 バンカーショットの理論 第 9 回 バンカーショットの実習と分析 第 10 回 パターショットの理論と実習 第 11 回～第 14 回 ゴルフ場にてショートコース実習 (18 ホール) 東広島カントリークラブファミリーコース 費用：700 円程度 第 15 回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ A (バスケットボール)					
英 訳	Sports A					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】 バスケットボールの競技特性、及びルールを理解し、基礎的な個人的・集団的技能を習得する。更にそれらを活かしたゲーム展開の方法や審判法の実習をする。						
【授業の目的】 授業の前半に基本的な個人的・集団的技能を習得するための練習を行い、後半に学習した技能を実践するためのゲームを行う。また、ゲームを運営するための審判法や記録法についても学習する。						
【到達目標】 バスケットボール技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 基本技術 (ボールハンドリング、パス、ドリブル、シュート) 第 3回 個人技術 (1対1の攻撃と防御) 第 4回 集団戦術 (2対2、3対3での攻撃) 第 5回 集団戦術 (2対2、3対3での防御) 第 6回 ルール、審判法 第 7回 チーム戦術 1 第 8回 チーム戦術 2 第 9回 チーム戦術 3 第 10回 ゲーム運営 (1) 第 11回 ゲーム運営 (2) 第 12回 リーグ戦 (1) 第 13回 リーグ戦 (2) 第 14回 リーグ戦 (3) 第 15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ B (サッカー)					
英 訳	Sports B					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】						
サッカーの基本技術や基本戦術の理論と実践を学ぶ。正式なルールを理解しながら、サッカー独特の足技や動き方を身につけ、それらをゲームで活用できるようにする。						
【授業の目的】						
サッカーの実践を通して運動技能を高め、生涯スポーツを続けていくための取り組み方、ルール・マナーの習得、戦術・戦略的活動の理論と実践を身につけ、競い合う相手を尊重し、周囲と共同する態度を学ぶ。						
【到達目標】						
サッカー技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】						
前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】						
第 1 回 ガイダンス						
第 2 回 基礎体力トレーニング						
第 3 回 個人技術の習得 (1) (足裏でのボールタッチなど)						
第 4 回 個人技術の習得 (2) (パス：様々なキック)						
第 5 回 集団技術の習得 (1) (ボールポゼッション)						
第 6 回 集団技術の習得 (2) (シュート：ポスト、スイッチなど)						
第 7 回 集団技術の習得 (3) (ポジションとその役割)						
第 8 回 集団技術の習得 (4) (セットプレー)						
第 9 回 ルールの確認 (審判とゲーム進行)						
第 1 0 回 ゲーム運営 (1)						
第 1 1 回 ゲーム運営 (2)						
第 1 2 回 ゲーム運営 (3)						
第 1 3 回 ゲーム運営 (4)						
第 1 4 回 フットサルに必要な技術と戦術の確認						
第 1 5 回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】						
授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】						
平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】						
健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ B (ミニテニス)					
英 訳	Sports B					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 ミニテニスの理論と基礎技術であるフォアハンドショット、バックハンドショット、ボレー、サーブ等を習得し、できるだけ多くのゲームを消化していく。体育館のバドミントンコートを使用する。						
【授業の目的】 ミニテニスは、短いラケットと弾まないボールを使用して行うため、本来のテニスよりも上達が早く楽しく行えるスポーツ種目である。本講義では、ゲームを中心にして技術、戦術を学習する。						
【到達目標】 テニス技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 ミニテニスの歴史、テニスの運動強度推定 第 3回 グリップの理論と実習 第 4回 グランドストロークの理論と実習 第 5回 シングルス・ダブルスのルール 第 6回 ネットプレーの理論と実習 第 7回 ボレーの理論と実習 第 8回 サービスの理論と実習 第 9回 シングルスゲーム 1 第 10回 シングルスゲーム 2 第 11回 シングルスゲーム 3 第 12回 ダブルスゲーム 1 第 13回 ダブルスゲーム 2 第 14回 ダブルスゲーム 3 第 15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目ースポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ C (ゴルフ)					
英 訳	Sports C					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 ゴルフの理論と応用技術をグラウンドで学習し、学外のショートコースにおいて実践ラウンドを行い、ルール、マナーなどのラウンド知識を習得する。						
【授業の目的】 ゴルフは高校までの学校体育の教材として採用されることのほとんどない運動種目である。基礎的な理論・技術とラウンド技術を習得し、生涯にわたってゴルフを楽しむことが出来るようになることを目的とする。						
【到達目標】 ゴルフ技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくラウンドプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 グリップとアドレスの理論と実習 第 3回 プレーの方法 (ルール・プレー用語) 第 4回 ドライバーのスイングづくりの理論と実習 第 5回 スイングの完成とチェックの分析 第 6回 ショートゲームの理論と実習 第 7回 効果的な練習方法の理論と実習 第 8回 バンカーショットの理論 第 9回 バンカーショットの実習と分析 第10回 パターショットの理論と実習 第11回～第14回 ゴルフ場にてショートコース実習 (18ホール) 東広島カントリークラブファミリーコース 費用：700円程度 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目-スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ C (バドミントン)					
英 訳	Sports C					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】						
バドミントンの理論と基礎技術であるフォアハンド・バックハンドストローク、サーブ等を習得し、できるだけ多くのゲームを消化していく中で、ルール、戦術を習得する。						
【授業の目的】						
バドミントンは比較的小スペースで楽しむことができる手軽なスポーツであるが、レクリエーション的に行う羽根つきのレベルから、勝利を目的とした競技レベルまで、そのプレーの内容は極めて幅が広い。生涯にわたってバドミントンを楽しむことが出来るよう基本的な技術とゲームの進め方を学ぶことを目的とする。						
【到達目標】						
バドミントン技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】						
前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】						
第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について						
第 2回 バドミントンの歴史、バドミントンの運動強度推定						
第 3回 ルールの理論						
第 4回 フォアハンドストロークの理論と実習						
第 5回 バックハンドストローク、スマッシュの理論と実習						
第 6回 ハイクリーア、ドロップの理論と実習						
第 7回 ドライブ、ヘアピンの理論と実習						
第 8回 サービスの理論と実習						
第 9回 シングルスゲーム 1						
第 10回 シングルスゲーム 2						
第 11回 シングルスゲーム 3						
第 12回 ダブルスゲーム 1						
第 13回 ダブルスゲーム 2						
第 14回 ダブルスゲーム 3						
第 15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】						
授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】						
平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】						
健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目－スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	スポーツ D (ニュースポーツ)					
英 訳	Sports D					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 あまり体験したことのないニュースポーツの基本技術や基本戦術の理論と実践を学ぶ。						
【授業の目的】 ニュースポーツの実践を通して運動技能を高め、生涯スポーツを続けていくための取り組み方、ルール・マナーの習得、戦術論と実践力を身につけ、競い合う相手を尊重し、周囲と共同する態度を学ぶ。						
【到達目標】 ニュースポーツの技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス (オールラウンドスポーツ) 第 2回 フライングディスク (アルティメット) のルールと戦術 第 3回 フライングディスク (アルティメット) 実践1 第 4回 フライングディスク (アルティメット) 実践2 第 5回 ホッケー (ユニホック) のルールと戦術 第 6回 ホッケー (ユニホック) 実践1 第 7回 ホッケー (ユニホック) 実践2 第 8回 ソフトバレーボールの戦術 第 9回 ソフトバレーボール実践1 第10回 ソフトバレーボール実践2 第11回 フットサルの戦術 第12回 フットサル実践1 第13回 フットサル実践2 第14回 ラケットスポーツ (卓球、バドミントン) 実践 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目－スポーツ科目	担当教員	スポーツ担当教員			
授業科目	生涯スポーツ A					
英 訳	Lifelong Sports A					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 生涯スポーツの一環として、マリンスポーツ（シーカヤック、ウィンドサーフィン、スクーバダイビング）の技術を学び実践する。また、キャンピングの基本的な技術（テント設営、飯盒炊さん等）を習得し、2泊3日の海浜での共同生活を行い、団体生活での協調性を養う。						
【授業の目的】 生涯にわたって楽しめるマリンスポーツ技術を獲得すること、キャンピングの基本的な技術を習得することを目的とする。						
【到達目標】 キャンピング、マリンスポーツを生涯にわたって楽しむことが出来るようになる。						
【準備学習(予習・復習)】 ある程度の水泳能力（水が怖くない程度）が必要。						
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 マリンスポーツの理論と技術 （ウィンドサーフィン） 第3回 マリンスポーツの理論と技術 （シーカヤック） 第4回 マリンスポーツの理論と技術 （スクーバダイビング） 第5回 テント設営および撤収実習 第6回 キャンプサイト設営理論 第7回 現地実習の計画作成、準備 第8回～第14回 実習：8月下旬（2泊3日） 場所：呉市蒲刈町県民の浜周辺 費用：ガイダンス時に提示する 第15回 まとめ、レポート提出						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み（80%）、レポート提出（20%）						
【メッセージ】 アウトドア生活を楽しみましょう。						

区 分	教養教育科目－スポーツ科目	担当教員	武良 徹文			
授業科目	生涯スポーツ B					
英 訳	Lifelong Sports B					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 生涯スポーツの一環として、スノースポーツ（スノーボード）の技術を学び、ウィンタースポーツを生涯スポーツとして実践できる基礎技能を身につける。また、スポーツ運動学の視点からとらえたスノーボードの滑降理論を学ぶ。大学での事前研修と3泊4日でスキー場での宿泊実習を行い、団体生活を通して協調性を養う。						
【授業の目的】 スノーボードの基本的な技術を習得することによって、生涯にわたって楽しめるレクリエーションスポーツの技能を獲得することを目的とする。						
【到達目標】 様々な環境でスノーボードを楽しむことが出来るようになる。						
【準備学習(予習・復習)】 スノーボードに関する書籍・web記事等を閲覧しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 スノースポーツの技術史 第 3回 道具のセッティング・整備1 第 4回 道具のセッティング・整備2 第 5回 スノースポーツの技術・理論 第 6回 基本的な滑り方の実習1（体育館） 第 7回 基本的な滑り方の実習2（体育館） 第 8回～第14回 実習：2月中旬（3泊4日） 場所：鳥取県大山スキー場 費用：ガイダンス時に提示する 第15回 レポート提出						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み（80%）、レポート提出（20%）						
【メッセージ】 アウトドアスポーツを楽しみましょう。						

区 分	教養教育科目－国際科目	担当教員	ヒギンボサム、吉本 由美			
授業科目	異文化体験 I					
英 訳	Intercultural Communication I					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 多文化共生社会において異なった文化を知ることは、相手を理解するだけでなく、自分を理解することにもつながる。新しい環境での生活を体験するために必要な心構えや技を身につける。						
【授業の目的】 海外渡航に必要な知識や英会話を習得することを目的とする。						
【到達目標】 海外渡航に必要な準備がわかる。旅行に必要な英会話ができる。異文化に対する姿勢ができる。						
【準備学習(予習・復習)】 インターネットを使って、授業前と授業後に調査、確認をする。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 旅行英会話1 第 3回 海外渡航の手続き1 (パスポートの申請方法など) 第 4回 旅行英会話2 第 5回 海外渡航の手続き2 (空港での手続きなど) 第 6回 旅行英会話3 第 7回 海外渡航の手続き3 (海外の通貨など) 第 8回 旅行英会話4 第 9回 地域の文化・慣習 第10回 旅行英会話5 第11回 海外での諸注意 (治安など) 第12回 旅行計画作成 第13回 研修地域の文化学習 第14回 英会話のまとめと最終テスト 第15回 渡航準備のまとめと最終テスト						
【教科書】 特になし。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 小テスト20%、最終テスト30%、平常点50%						
【メッセージ】						

区 分	教養教育科目－国際科目	担当教員	吉本 由美			
授業科目	異文化体験 II					
英 訳	Intercultural Communication II					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 多文化共生社会において異なった文化を知ることは、相手を理解するだけでなく、自分を理解することにもつながる。新しい環境での生活を体験するために必要な心構えや技を身につける。						
【授業の目的】 異文化体験 I を履修した学生が、海外研修を行い、実際に異文化を体験することを目的とする。						
【到達目標】 自分で渡航計画を作成し、海外で異文化を体験する。						
【準備学習(予習・復習)】 インターネットを使って、授業前と授業後に調査をする。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 渡航計画の提出 第 3回 研修報告書の提出方法 第 4回－第 14回 海外研修 第 15回 研修報告書の提出、まとめ						
【教科書】 特になし。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み80%、レポート提出20%						
【メッセージ】						

区 分	教養教育科目－国際科目	担当教員	桑山 尚司			
授業科目	国際技術協力 I					
英 訳	Theory and Practice of International Development and Cooperation I					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】						
<p>本授業は、「国際技術協力」に係る二つの活動（①先進国と開発途上国間の格差是正のための支援活動、②グローバル化に対応する企業活動）について、協働で事例研究を行う。受講者は、授業中に提示された課題について、グループワークやディスカッションをとおして考察を深め、最終的にはプロジェクト案の作成とプレゼンテーションを行うことが求められる。</p>						
【授業の目的】						
<p>受講者が、①途上国の貧困問題や②企業のグローバル化という課題に対して、問題解決に取り組むための基礎的な知識、スキル、態度を身につけること。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式の学習により、①途上国における「貧困の悪循環」や②グローバルな企業の活動における「マネジメント」についての基礎的な理解をえる。 ・KJ法を活用したグループワークやディスカッションをとおして、①や②に係る問題分析や目標設定の基礎的なスキルを身につける。 ・各受講者が自らの考えを表現し、グループ内で交流し、プレゼンテーションを行うことにより、①や②の課題に対して協働的に取り組む態度を身につける。 						
【準備学習(予習・復習)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・TVや新聞等のマスメディアから流れる当該分野の情報に眼を配り、自分なりの意見や疑問をもっておく。 ・授業者側から提示される要点、課題に対する自分なりの意見や疑問、他の受講者の意見から学んだことや疑問点、ノートに整理して、事前と事後に考察を深めること。 						
【授業計画】						
第 1回 ワークショップ①「貧困とは何か」						
第 2回 ワークショップ②「貧困と国際協力のつながり」						
第 3回 国際協力の具体的な取り組み事例						
第 4回 ワークショップ「ガクイン村の貧困問題をかんがえる」						
第 5回 問題分析の手法とプレゼンテーション①						
第 6回 問題分析の手法とプレゼンテーション②						
第 7回 開発論：課題分析のための複眼的思考に向けて						
第 8回 ワークショップ「国際化とは何か」						
第 9回 企業活動のグローバル化に係る具体的な取り組み事例						
第10回 ワークショップ③「企業は国際化にどのように取り組んできたか」						
第11回 問題分析の手法とプレゼンテーション③						
第12回 ワークショップ「課題解決に向けたプロジェクト案作成」①						
第13回 ワークショップ「課題解決に向けたプロジェクト案作成」②						
第14回 ワークショップ「課題解決に向けたプロジェクト案作成」③						
第15回 各グループによるプロジェクト案発表、まとめと振り返り						
【教科書】						
教材や資料は、授業時に配布する。						
【参考書】						
授業時にリストを配布する。						
【成績評価基準】						
レポート (50%)、授業中の課題への取り組み (50%) で評価する。						

【メッセージ】

国際技術協力に関する専門的知識を前提としませんが、これまでの知識や経験をもとにして、自分なりの意見をもつこと・それを表現すること・他の参加者の意見を聴くこと・協働しながらよりよいアイデアを探究することを心がけてください。

区 分	教養教育科目－国際科目	担当教員	桑山 尚司			
授業科目	国際技術協力 II					
英 訳	Theory and Practice of International Development and Cooperation II					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】						
本授業では、国外及び国内における技術協力を携わるボランティアの活動について、協働で事例研究を行う。受講者は、授業中に提示された課題について、グループワークやディスカッションをとおしてボランティアに対する理解と考察を深めることが求められる。						
【授業の目的】						
受講者が、ボランティアの理念やその国内外における活動（①青年海外協力隊や国際NGOにおける国際的なボランティア活動、②自然災害発生時等における国内でのボランティア活動）についての基礎的な理解を深め、ボランティアに係る課題を自らの生活につながるものとして捉えられるようになること。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式の学習により、①途上国の実態を踏まえた国際的なボランティア活動、②災害発生時の被災者の実態を踏まえた国内のボランティア活動に対する基礎的な理解をえる。 ・KJ法を活用したグループワークやディスカッションをとおして、①や②に係る問題分析の基礎的なスキルを身につける。 ・各受講者が自らの考えを表現し、グループ内で交流し、プレゼンテーションを行うことにより、①や②の課題に対して協働的に取り組む態度や倫理観を身につける。 						
【準備学習(予習・復習)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・TVや新聞等のマスメディアから流れる当該分野の情報に眼を配り、自分なりの意見や疑問をもっておく。 ・授業者側から提示される要点、課題に対する自分なりの意見や疑問、他の受講者の意見から学んだことや疑問点、ノートに整理して、事前と事後に考察を深めること。 						
【授業計画】						
第 1回 ワークショップ①「ボランティアとは何か」						
第 2回 ボランティアの歴史と基本的な理念						
第 3回 ワークショップ②「青年海外協力隊によるボランティア活動について考える」						
第 4回 問題分析の手法とプレゼンテーション①						
第 5回 問題分析の手法とプレゼンテーション②						
第 6回 国際機関及び日本による国際技術協力とボランティア活動						
第 7回 ワークショップ③「国内での災害ボランティア活動について考える」						
第 8回 日本における災害ボランティアの現状						
第 9回 ワークショップ④「震災ボランティア活動について考えるⅠ」						
第10回 問題分析の手法とプレゼンテーション③						
第11回 ワークショップ⑤「震災ボランティア活動について考えるⅡ」						
第12回 問題分析の手法とプレゼンテーション④						
第13回 ワークショップ⑥「ボランティアと倫理」						
第14回 問題分析の手法とプレゼンテーション⑤						
第15回 各グループによる発表のまとめと振り返り						
【教科書】						
教材や資料は、授業時に配布する。						
【参考書】						
授業時にリストを配布する。						
【成績評価基準】						
レポート（50％）、授業中の課題への取り組み（50％）で評価する。						

【メッセージ】

ボランティアとは、自発的な活動であり、自らの成長にもつながりうるものです。これまでの知識や経験をもとにして、自分なりの意見をもつこと・それを表現すること・他の参加者の意見を聴くこと・協働しながらよりよいアイデアを探究することを心がけてください。